

平成24年度 室内環境学会地域文化財保全分科会 活動計画

委員長		氏名	所属
		阿部 恵子	環境生物学研究所
幹事		村田 朋美	北九州市立大学
委員	1.	田中 健治	名古屋大学
	2.	増子 昇	東京大学
	3.	島ノ江 憲剛	九州大学総合理工学研究院
	4.	西山 要輔	高槻市教育委員会文化財スタッフの会
	5.	森 容子	東近江市教育委員会文化財課
	6.	川上 裕司	エフシージー総合研究所
	7.	永安 克志	アメニティーテクノロジー
活動概要		<p>【活動計画】 活動方針 研究対象を、「文化財のカビによる劣化と対応策」とし、研究結果は、地域が主体となって文化財保全を行う「地域文化財保全モデル」としてまとめる。分科会活動は、「保全環境の測定」と「環境改善のための対応策」で構成し、①測定装置の提供、②測定結果の分析、③対応策のアドバイス、④対応策の効果についての検証を行い、文化財保全環境の向上に貢献する。</p> <p>環境測定 1) 調査箇所 調査箇所は分科会で検討し選定する。 2) 調査時期 調査時期は、外気の影響で建物内部が高湿になりやすい梅雨から秋（6月22日～10月12日）とする。冬期も外気が高湿を保つ地域では冬期も調査時期に含める。 3) 調査項目 カビ指数の実測：カビセンサー（内部に供試カビの胞子とその栄養分を封入した試験片）を調査箇所に設置し、4週間の境曝露後に回収。供試カビの菌糸長と曝露期間からカビ指数を計算する。 温度と相対湿度の測定：調査期間中の温度と相対湿度を、温・湿度記録計を用いて1時間毎に計測・記録する。温度と相対湿度のデータからカビ指数を推定し、実測されたカビ指数の季節変動を補足。 その他の測定：参加メンバーが希望すれば他の項目の追加は自由。</p> <p>環境対応策 前年度の調査で、文化財環境として問題があると判断された箇所は、分科会で検討し今年度に境対応策を導入する。今年度の調査結果は分科会で検討し、必要であれば来年度に境対応策を導入する。</p> <p>募集 参加メンバーと新たな調査対象を募集しているので、希望される方はご連絡ください。 連絡先は 室内環境学会 事務局（しかま） 〒130-0026 東京都墨田区両国4-38-3 第8高島ビル6F（株）アイデック内 TEL. 03-5600-4871 FAX. 03-5625-4299 e-mail. info@siej.org</p>	
年会議予定回数		4回	